町予算の全貌

町予算議決さる

歳入　三六・七四二・七三五円
歳出　三六・七四二・七三五円

二十八年度予算は先般の町会で議決されたが主なる事業と予算をひろつて見よう。

先づ社会教育費六十七万二千円余の内、公民館予算は六五万五千円余であり、本年度も活溌なる運営活動が活目期待せられる

亦町の大きな施策として公営住宅の建設が二二六万八千円余で実施され、公益質屋も一一五万二千円余で設置と決し、北部町民多年の希望であつた北部水道拡張が五〇〇万円の経費で実行に移されることになつた。

更に防火態勢の確立を目指して消防自動車一台の新購入が議決せられたのである。

以上が大きな新年度事業であるがこれを円滑に遂行するには当局の適切なる努力、処置は勿論のこと、町民挙げて税金完納の意欲に燃えて、協力一致、民生安定・社会福祉の増進、産業の振興に、それぞれ、財ある者は財を、力ある者は力を、智恵ある者は智恵を出し合つて、打つて一丸となつて推進していかなければならないであろう。

◆歳入の部（単位円）

一、町税	一六、三四〇、〇八〇
二、地方財政平衡交付金	一、六三六、〇〇〇
三、公営企業及び財産収入	一、一一五、五九〇
四、使用料及び手数料	四、一一五、六六一
五、国庫支出金	二、八二二、一〇〇
六、県支出金	六五九、三五〇
七、寄付金	一〇〇、〇〇〇
八、繰入金	七七、〇〇〇
九、繰越金	一、一〇〇、〇〇〇
一〇、雑収入	一、三六一、〇五八
一一、町債	五、五七〇、〇〇〇
一二、貸出受入金	一、一七一、四三四
歳入合計	三六、七四二、七三五

◆歳出の部（単位円）

一、会議費	五七〇、四〇六
二、役場費	七、三三九、三五〇
三、消防費	三、一二九、八五六
四、土木費	八五六、八七一
五、教育費	五、八二七、三三九
六、社会及び労働施設費	五、三一三、六一三
七、保健衛生費	七、六〇七、八二五
八、産業経済費	三、五九四、九三三
九、財産費	八四四、四九七
一〇、統計調査費	一九、五〇〇
一一、選挙費	八八、六二三
一二、公債費	一、五七〇、五三〇
一三、特別積立金	四四五、八一〇
一四、諸支出費	一、三七八、五一三
一五、予備費	五〇、八四〇
歳出合計	三六、七四二、七三五

大橋五二松先生を想う

—算盤の恩師—

昭和二十七年十二月二十七日大橋五二松先生には八十八才を一期として大往生を遂げられた。巨星地に墜つるの感が深い。

提灯の明りで暗い雁木を通うた明治から、大正、昭和を通じ白根町に生を享けた者、大多数が、先生手づからの教を受けている。先生と云うよりは、むしろ慈父として親しく指導して下さつた。白根から一歩世間へ出た者の殆んどが「算盤白根」の誇りを感じたのである。

先生を内のおやぢのやうに我儘一つぱいに振舞つた其の頃の腕白小僧こそ、一層先生を憶う感慨の痛切なるものあるを信ずる。

◆先生の略歴

慶応元年四月二十日平松豊松の二男として誕生、五二松の名は五人兄弟の男の二番を意味したさうである。

幼少時、五代目大橋善太郎の養嗣子となる。

実父豊松氏（現平松三四郎氏の祖父）は算盤の造詣深く、天元天算等の珠算を子弟に教へ込まれた。十四才の頃、魚町の小柴文嗣氏と特に仲良く二人連れで故木下丑太郎先生の厳父木下左右平先生に就き白根の珠算と言われた和算及び幾何を真剣に教はつた。家へ帰つてからも大根を切断したものを三つ切りにし幾何を解く資料にされたと云はれている。斯くして性来の素質と努力が実を結び、和算の深奥を極められた木下翁は、齢の故で教授を廃されたので、明治十七年十月荒物商の傍、夜間のみの珠算の塾を開かれた。この塾は延々六十年余に亘つた。

大正十一年十月中蒲原郡長片山三男三殿より表彰さる。

大正十二年六月白根町教育会より表彰さる。

昭和六年四月白根町商工会より表彰さる。

昭和十三年二月東京在住門下生一同より感謝状と大火鉢一個を贈り、金長楼に招待申上げ先生を慰めている。

町のニュース

◇白根橋架橋期成同盟会から、昨秋請願の出て居つた町費から工事費不足分と竣工式の費用合計七〇万円補助の件は二月五日開かれた町会議員の協議会で、徹底的に再検討の結果、同日夕方からの急施町会となり（出席十八名）賛否的意見も出たが、結局満場一致で採択され四月十二日愈々渡橋式典が執行されることになつた。

◇平衡交附金が廿七年度予算高二二〇〇万円に対し五〇〇万円余の査定で、町収入の赤字が差引一七〇万円の予想の処、町長初め町当局連日に亘る交渉の結果、大幅に増額され、約一八〇万円余に復活し尚努力中であるから多少の増交は期待出来る見込である。

◇消防団で切望中であつた機械化の第一着手として、第一と第二分団合併による自動車ポンプ購入の熱望が町議会全員の賛成を得て実現する事となつた。早期消火の見地からして損害が最少限に防止される事は論を俟たぬ処だが、今使つて居る手曳きのガソリンポンプのエンヂンは四〇年近くもの長年月の奉公により今は全く使いものにならないのが二台程あると団当局の言明であるが、防火上小型ポンプ買入れの暁は一大偉力と機動性を発揮されるものとして、大いに期待されて居る。

◇中学校校舎は既に老朽化し、先般県庁土木部建築課係官来町診断の結果、改築をしなければ保安上危険であるからとして注意された由、災いは忘れた頃やつてくるものである。貴重な生徒の人命が失はれないうちに何んとかならぬものかと、心ある町民の要望切々たるものあり。

◇小学校も大変狭くなり、教務室を半分区切つて音楽室としたり、やりくり算段に奔命して居るのが実状で、定員五〇人（一教室生徒数）の処、六〇人から七〇人の児童がヒシめいて居て教室は年々不足している。これでは完全なる初等教育も仲々困難だと歎くものあり、校舎問題の解決は目下の急務である。

◇一月二十四日から五日間に亘り開かれた臨時町議会に、連日教育委員会予算説明の為め出勤された片桐教育長は声をカラして居られた。カレ声で曰く「議会の一問一答に馴れたとは云いながら議員諸氏の奮斗には敬服する」と。

◇七軒以北町民が多年の念願であつた上水道延長布設工事は、元新津市水道部に居られた谷井技師の設計も完了したが、風の便りに聞くと約五〇〇万円の予算で、深夜町部で水を使用しない時間に送水し、北部の適当な箇所に貯水しておき、昼間之を更に同所で設備予定のポンプで送水し給水する計画だとか。

◇昨春婦人協会の請願で県立高校誘致の問題が町議会満場一致で決定されたのだが。これに対し皆沢委員長は町教育全般の観点から綜合的に、然も早急に之が対策を樹立すべきであり、努力中であると語つて居られた。

◇白根町の二十七年度現計予算高は現在二・七〇八万円余であるが、新年度（二十八年）は平衡交付金の減額必至見込と経済界の不況を反映し、有力財源とて困難が予想され、増税は望み薄であり各種の事業の企画着手には起債に待たざれば編成難に縫着するは火を見るよりも明らかなものとされ、予算の編成難は文字通り財政逼迫となり、ヒシ／＼と襲いつゝある。町民諸氏も批判と協力を使いわけて町勢伸展の為め一段の努力を望むと云うものあり。

◇二十八新年度予算は赤字予算か、圧縮大引き予算かと噂されて居つたが三月十四日招集の予算町会で全貌がハッキリした。総額歳入出とも三、六七四万円となり、現計予算高と比べた時約九六六万円の大幅増となつて居る。これをザックバランに見るとき、町営住宅十戸建築に二二〇万円余を、前記自動車ポンプ購入に一〇〇万円、公益質屋（町営の質屋さん）一一五万円を七軒以北上水道延長工事費中純町費負担額一〇〇万円等があげられているが、町台所のヤリクリの困難さをしみじみ語る塚田町長の表情は、一萬町民の苦悩を如実に表現したものと云うものあり。

◇過般就任された草間助役は、目下肺浸潤再発で長期静養中であり、収入役又欠員中で、深沢書記が之を代理中である。町長や其の他吏員諸氏の一部で兼任されて居るが町政運営上に於てスムース化の為にも専任を選べと要望するものあり。

◇一名欠員中の公平委員は魚町川井松一氏を選任、承諾され就任。

◇町裏を流れる用水堀は、現在の所下水幹線として衛生上大きな役割を果して居るが、近年児童生徒の通退校と、大型自動車の通行、工員等のラッシュアワー時に於ける交通量は本町通りや、新町通りにも劣らないものがありとして都市美や、市側施行の前提条件からも、防火活動上または交通禍から貴重な人命を護る見地から是非とも之に蓋をなす等の措置を熱望する沿岸関係町民間の声が昂りつゝあり、去月の臨時町議会に土地改良区当局へ側面的斡旋方を望む請願書が出され、善処方を町議会土木委員会に委託され、実地視察の結果、下流の関係耕作農民の都合もあり、都市計画等とニラミ合せた場合重大問題なりとして再検討の為め採択保留となつたが、根本的なプラン樹立を早急に要望するもの関係者のみに非ず、全町民の声と云うものあり。

◇一割安くなる国保の一部負担金の問題。社会保障制度の一端として敗戦後実施された国民健康保険の患者の一部負担金は今迄は半額窓口払いとなつていたが、当町では政府の助成策に応えて、補助金を全部患者負担の軽減に充てることに決定、三月二十四日の町議会の承認を得て四月一日から一〇％減を実施することになつた。

ユリ籠から墓場までをモットーとする福祉国家への一歩前進なりと云うものあり、勤労階級にはけだし朗報なり。

（昭二八・四・三・中の口山人記）

公民館便り

白根町公民館役職員の改選、地方教育委員会ができ、教育の事は、あげて地方教育委員会の主管することゝなり、白根町公民館条例も改正となつたので、公民館長始め、公民館運営審議会委員の退任を願い、あらためて公民館長は三月十七日、運営審議会委員は三月十日社会教育法に定められた方法により、左記の通り決定、夫々教育委員会より任命、委嘱せられた。

役職員の委嘱、任命について公民館長の任命に関しては、社会教育法第二十八条により、教育長が推薦し、教育委員会は、あらかじめ公民館運営審議会の意見を聴えた上決定し、任命せられたものである。公民館運営審議会の委員は、社会教育法第三十条に定めらるゝ左の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱せられたものである。

一、当該市町村の区域内に設置される各学校の長
二、当該市町村の区域内に事務所を有する教育、学術、文化産業、労働、社会事業に関する団体又は機関で、第二十条の目的達成に協力するものを代表する者
三、学識経験者

◎役職員名

白根町公民館長　清水節義

白根町公民館運営審議会委員

殿長平　石川伝三郎
本田栄司　外山儀三郎
若槻教林　中村俊松
藤崎清吉　清水茂衛
瀧川卿佐男　近島省三
星野乙平　和田光恵治
笹川喜一郎　川瀬俊一
上杉貞夫　堂下正直
丸山鉄治　大関清一
石川キヨノ　渡辺ミネ

防犯標語入賞作品

一等　樋山恵吾
良いか戸締り心の締り

二等　吉川末吉
君の罪親泣く町泣く国も泣く

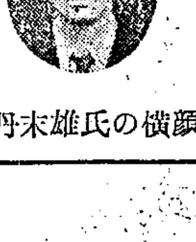
二等　吉川末吉
防犯は戸にも窓にも心にも

三等　狩谷松雄
しまつたと言はぬうちの御用心

三等　大矢直作
犯すな罪悪悔いなき一生

三等　高橋祐紀雄
あの子がと指さすその手に導かう

情熱の研究家



伊丹末雄氏の横顔

本紙に白根町略史、中蒲原略史を執筆中の伊丹氏は、其の名の如く庄瀬村貧木新田、伊丹忠三氏の末つ子である。中学新任第一声「ノッポの伊丹です」と挨拶の如くひよろ／＼の氏のどこにあれだけの精力があるのか、不思議なくらい、勤勉者の二倍の仕事を優にやつてのける。然し氏の仕事の質と量の立派さは精力だけではない、それは氏の「才能」と「情熱」の問題だからで、才能は天賦のものとしても、情熱は意志によつて之をかき立て、又養う事の出来るものであるから、此の観点から氏の「情熱」とほとばしり出た貌としての努力と良心とは氏を知る人の範とする点である。

小学校時代から抱いた万葉に対する研究熱は高田師範に入つて燃え上り、ミリタリズムのミリユーの中にも燃え続け、遂に「第九番の歌」の研究を大成し、齊藤茂吉氏をして「最高の論理」と叫ばしめた。

氏は煙草は嫌い、酒は駄目だが甘さと洗濯は大得意、羊かんの食競争なら何時でもお相手になるとの事、又、天性の清潔好みは氏をして毎日髪の毛を洗わしめ、学校の夜中の水の音は氏の洗濯とみて間違いない。氏の恐しいのは金欠病、毎朝寝醒めに「町外不出の掟」なる金欠病防止対策スローガンを朗読する。

学校では社会科主任、兎角マンネリズムに陥り易い社会科教育の癌に一陣の涼風を与えられて居る点、白根の子供達も幸福と云わねばなるまい。

——妄言多謝——

郷土史中心の大講演會

公民館社会部では、郷土史の大家、新潟県教育委員斎藤秀平先生を招聘し、左記により大講演会を開催することになつた白根町文化向上の為め奮つて御聴講あらんことを乞う。

一、日時　四月廿六日午後一時
二、会場　白根町役場二階
三、講師　斎藤秀平先生

公明選挙